

## R7.3 学期始業式 式辞 「宇野中ファミリー」

あけましておめでとうございます。2026年、新しい年がスタートしました。突然ですが、昨日は大きな地震がありましたね。鳥取県西部、島根県東部で震度5強の大きな地震がありました。ここ玉野市では震度3ということでしたが、体に感じる揺れと恐怖・不安はそれ以上ではなかったかと思います。震度3は「誰もが揺れを感じる大きさ」と言われていますが、震度5強になると、「何か物につかまらないと立っていられない揺れ」と言われています。そのような揺れが実際に起こると本当に怖いと思います。その後、何回も余震が続いたので、さらに不安や怖さを感じた人も多かったのではないかと思います。私はすぐに昨年末に、みなさんと地震の避難訓練をしたことを思い出しましたが、やはり、地震が起きた場合の「備え」や「心構え」について、もう一度認識しておいてほしいと思いました。

さて、今年は「馬年」ということで、先生たちは生徒の皆さんと共に目標へ向けて走っていく、という年にしたいと考えています。

「馬」ということで、私が思い出すのが、昨年に放送された「ロイヤルファミリー」というドラマです。皆さんの中に、見ていた人はいますか？

仕事で挫折した妻夫木聰演じる主人公が、ある馬主と出会い、北海道の名もない小さな牧場で育てた馬を、様々な困難に会いながら、日本で最高峰のレースである「有馬記念で勝つ」という目標へ向けて日々、奮闘する、というものでした。

例えばドラマでは、資金力が豊富で才能のある馬を買い、恵まれた環境で育て、優秀なジョッキー（騎手）が乗るような、そんなチームの馬とも戦わなくてはなりません。もちろん初めから勝てるはずはありません。何度も、挫折を味わいながらも目標や夢を決してあきらめず、全力で挑んでいったという感動的なストーリーです。

ただ、ここの話の中で、私が自分自身、改めて知ったことがあるんですが、それは、1頭の馬をレースで走らせるために、たくさんの職業や人々が関わっていることです。

まずは、馬を繁殖、出産させる牧場スタッフといわれる生産者から、調教といって、馬を競走馬にするための訓練をする調教師の人、普段、餌やりや手入れをする世話人、馬の健康管理を担当する獣医師の人もいます。その馬にあう蹄鉄や馬具をつくる装蹄師という人、そして馬の所有者である「馬主」という人など、合計すると20職種以上が関わっているそうです。

つまり、馬を競走馬として出走させるまでに、これほど多くの人たちが関わり、目の前の馬を勝たせたいという同じ目標をもって、各々が日々努力している、ということがわかりました。

まずは夢や目標を誰かと共有し、夢を叶えるために強い思いをもち、努力を重ねていくというプロセスを大切にし、多くの人とつながり、協力していくことが大切なのだということを学んだような気がしました。

3年生にとっても、皆さんのが受験という試練に立ち向かうために、勉強を教えたり進路について一緒に考えてくれたりする先生がいます。衣食住を支えてくれ、安心できる家族がいます。競い合ったり励まし合えたりする仲間がいます。受験は個人競技のように思いますが、じつはチームプレーです。高校へ進学するという目標をかなえるために多くの人に支えられているという自覚と感謝の気持ちを忘れないでください。

さて、みなさんも新年を迎えた時には、夢や目標をもち、神社やお寺でお願いをすると思います。その夢や目標が叶うよう、時にはライバルとして競い合いながら、時には支えてもらいながら宇野中ファミリーの一員として、それぞれが目標とするゴールに向けて一緒に走っていきましょう。